2026年12月期 第3四半期 決算補足説明資料（連結）

2026年11月12日
シンクレイヤ株式会社
証券コード：1724

2026年12月期 第3四半期業績サマリ(経営成績)

SYNCLAYER
MAKING POTENTIAL A REALITY

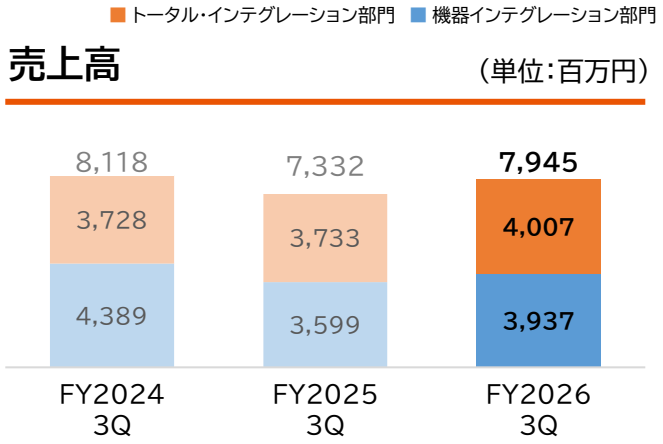
両部門で増収、資材価格上昇の影響があったものの、生産効率の改善等が寄与し増益

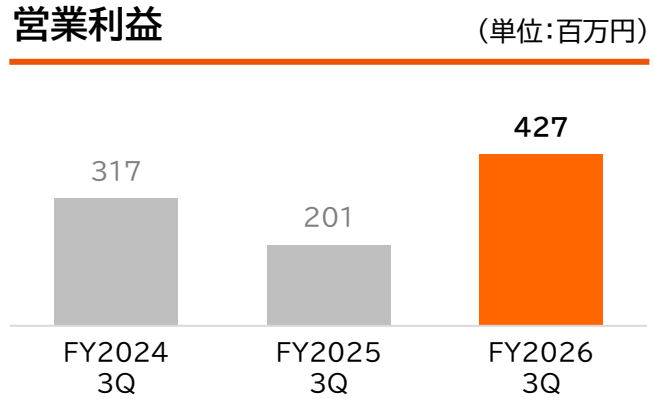
売上高 | **7,945 百万円**
前年同期比 613百万円増(8.4%増)

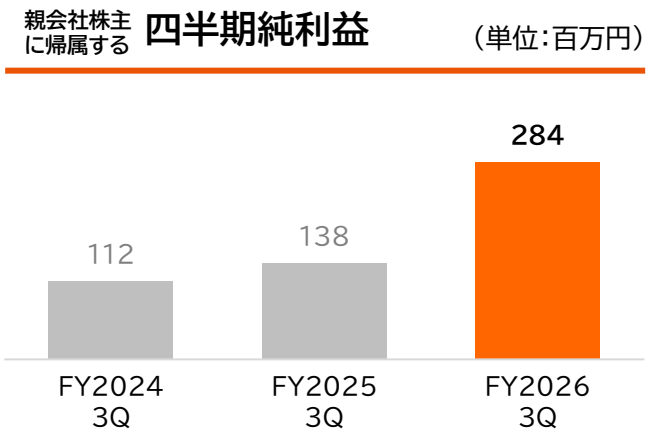
営業利益 | **427 百万円**
前年同期比 225百万円増(111.6%増)

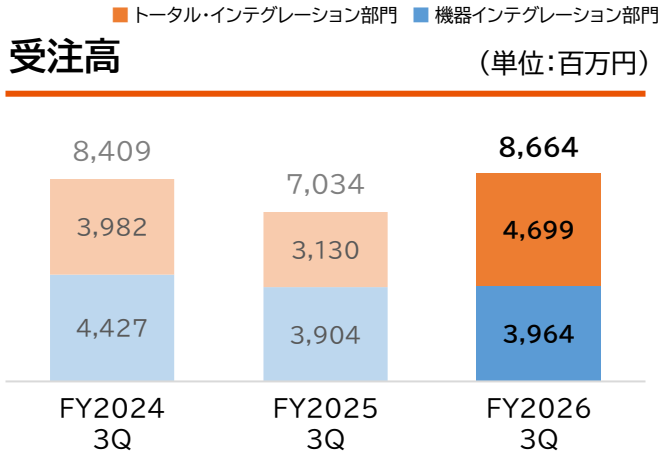
親会社株主に帰属する四半期純利益 | **284 百万円**
前年同期比 145百万円増(105.3%増)

受注高 | **8,664 百万円**
前年同期比 1,629百万円増(23.2%増)









- TI部門、機器I部門の両部門ともに増収
- 一部の工事案件において受注後の資材価格上昇による工事原価への影響があったものの、増収効果に加え、機器の生産効率の改善等が寄与し、前年同期と比較して増益

2026年12月期 第3四半期業績サマリ(財政状況)

SYNCLAYER
MAKING POTENTIAL A REALITY

自己資本比率は60%を超え、強固な財務基盤を維持

(単位:百万円)

	FY2025 期末	FY2026 3Q	増減	主な要因
流動資産	6,063	6,233	170	現金及び預金の増加
固定資産	3,757	3,831	74	
資産合計	9,820	10,065	244	
流動負債	2,869	3,163	293	未払法人税の増加
固定負債	742	573	▲ 169	長期借入金、長期未払金の減少
負債合計	3,611	3,736	124	
純資産合計	6,208	6,328	120	
自己資本比率	63.2%	62.9%	-0.3%	

2026年12月期 第3四半期 トピックス

SYNCLAYER
MAKING POTENTIAL A REALITY

7月

◆3つの展示会に出展し、販路を拡大

自治体総合フェア	ケーブル技術ショー	賃貸住宅フェア（初出展）
自治体市場で新たな顧客拡大を推進しました。	ケーブルテレビ業界最大級の展示会で顧客との接点を拡大しました。	集合住宅市場の新規開拓に向けソリューションを展示、セミナーを展開しました。







9月

◆10G-EPON ONU「SXEP210W」を発売



拡大する10Gbps光回線市場と宅内通信の高性能化需要に対応するため、新機種を開発・発売しました。

■Wi-Fi 7に準拠したことで高速化・低遅延化を実現

最大通信速度	同時接続性能	通信遅延
約2倍	約1．2倍向上	約50%低減

※従来機種と比較

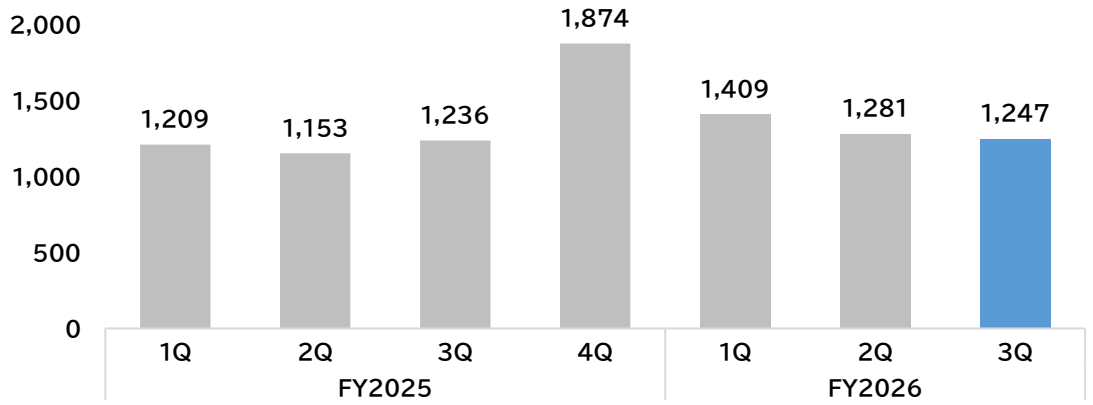
スマートフォン、ゲーム機、IoT機器などの普及、動画配信サービスの利用者拡大に対応

事業部門別概況（トータル・インテグレーション部門）

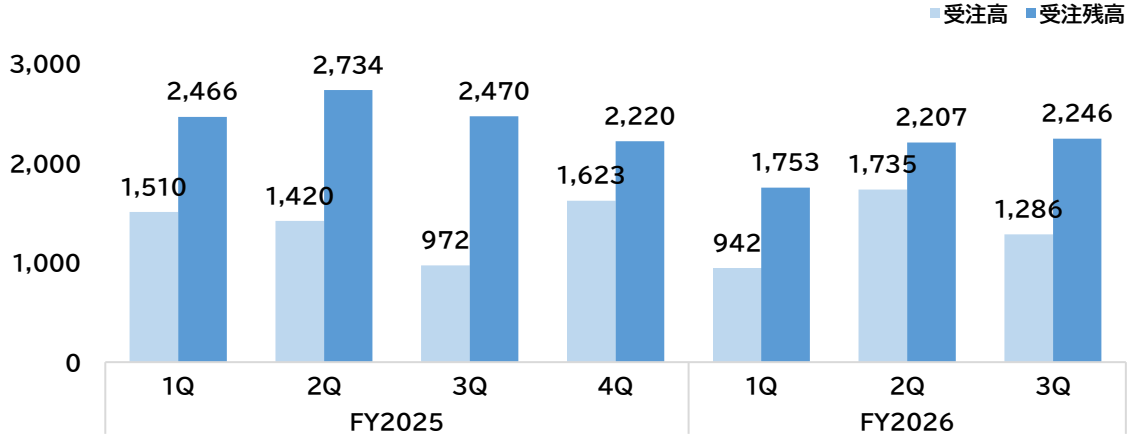
SYNCLAYER
MAKING POTENTIAL A REALITY

大型・短工期案件の売上計上が進み増収、50G-PONを含む高付加価値案件を受注

売上高　（単位：百万円）



受注状況　（単位：百万円）



売上高　3,937百万円（前年同期比9.4%増）

- 前期から継続する大型案件が順調に進捗したことに加え、短工期案件の売上計上が進んだことにより増収

受注高　3,964百万円（前年同期比1.5%増）

受注残高　2,246百万円（前年同期比9.1%減）

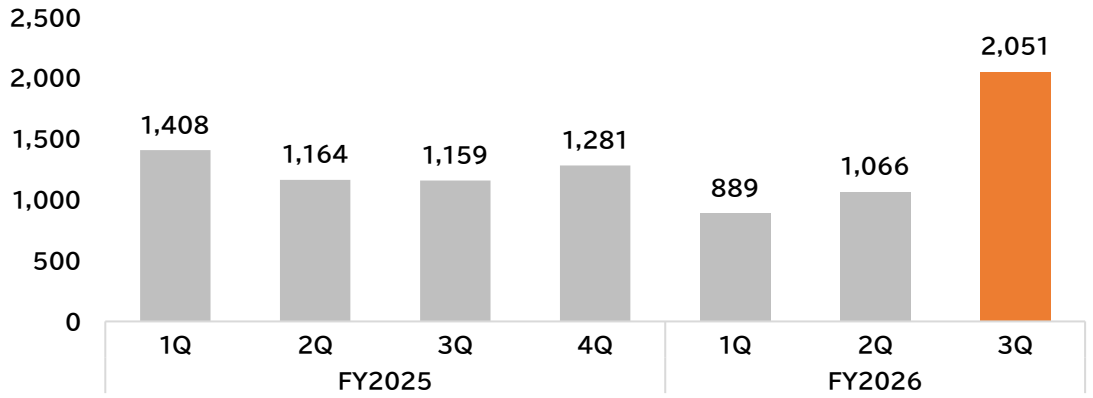
- FTTHエリアの拡張・増強に伴う工事や、次世代通信技術である50G-PONを含む設備導入案件に加え、上位基幹ネットワークの構築案件を獲得

事業部門別概況（機器インテグレーション部門）

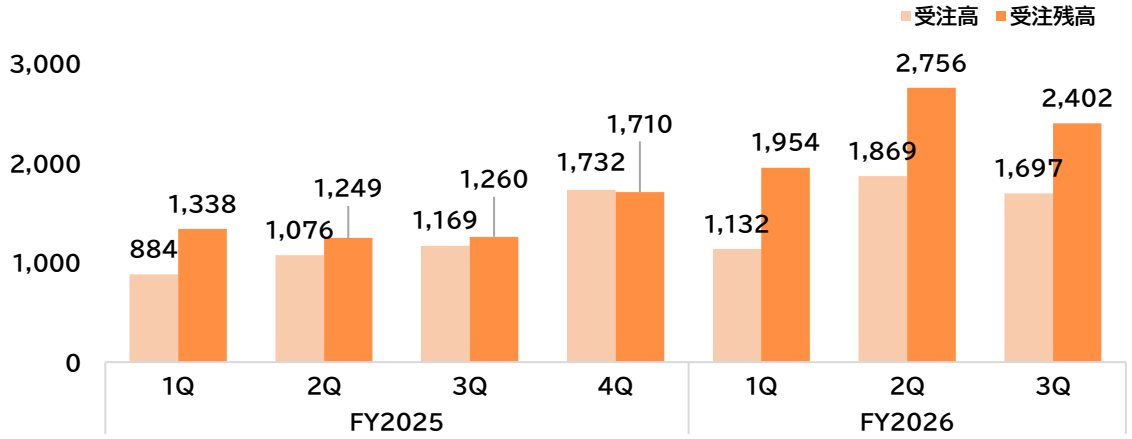
SYNCLAYER
MAKING POTENTIAL A REALITY

受注済み案件の納品が進捗し増収、FTTH化関連機器案件を獲得、引き続き着実な案件遂行に努める

売上高　（単位：百万円）



受注状況　（単位：百万円）



売上高　4,007百万円（前年同期比7.4%増）

- 中間期において納期が下期以降となっていた受注済み案件の納品が進捗したことにより増収

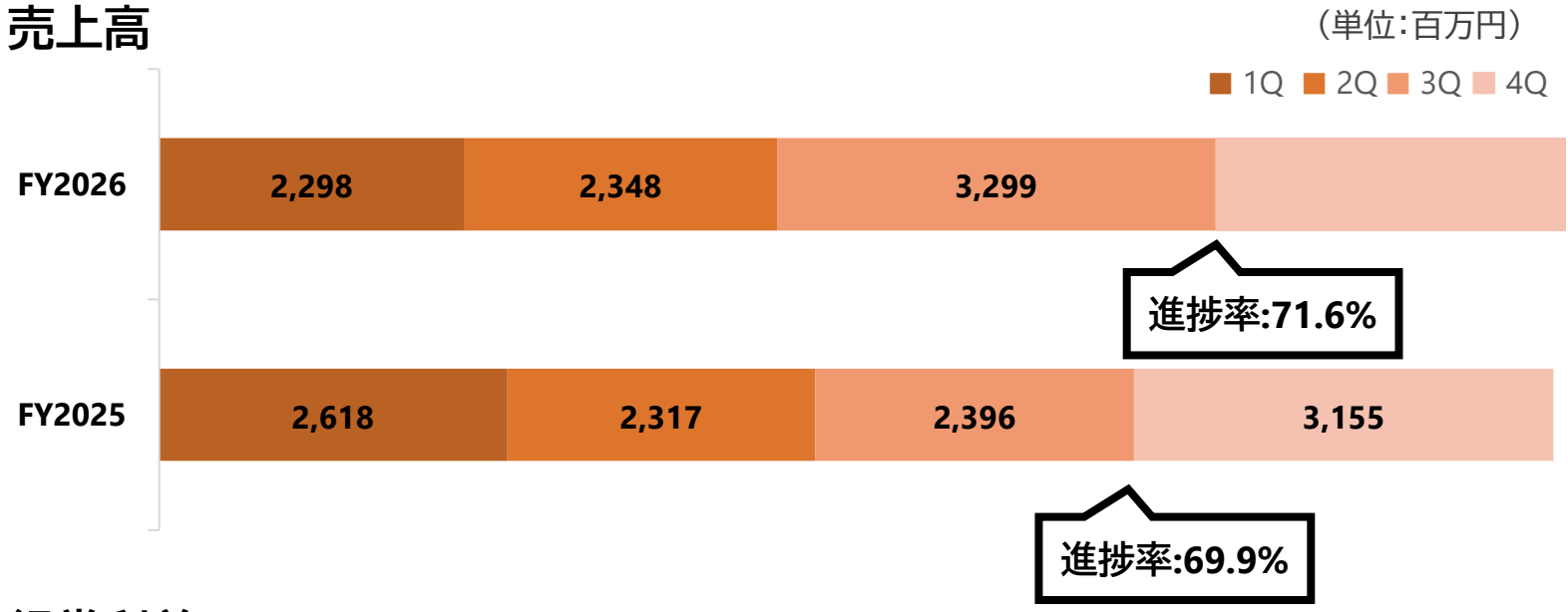
受注高　4,699百万円（前年同期比50.1%増）

受注残高　2,402百万円（前年同期比90.7%増）

- 主な受注案件として、光信号を複数に分岐する光スプリッタモジュールや小～中規模集合住宅の光化に対応するminiOLTなどのFTTH化関連機器案件を獲得

2026年12月期 第3四半期累計進捗

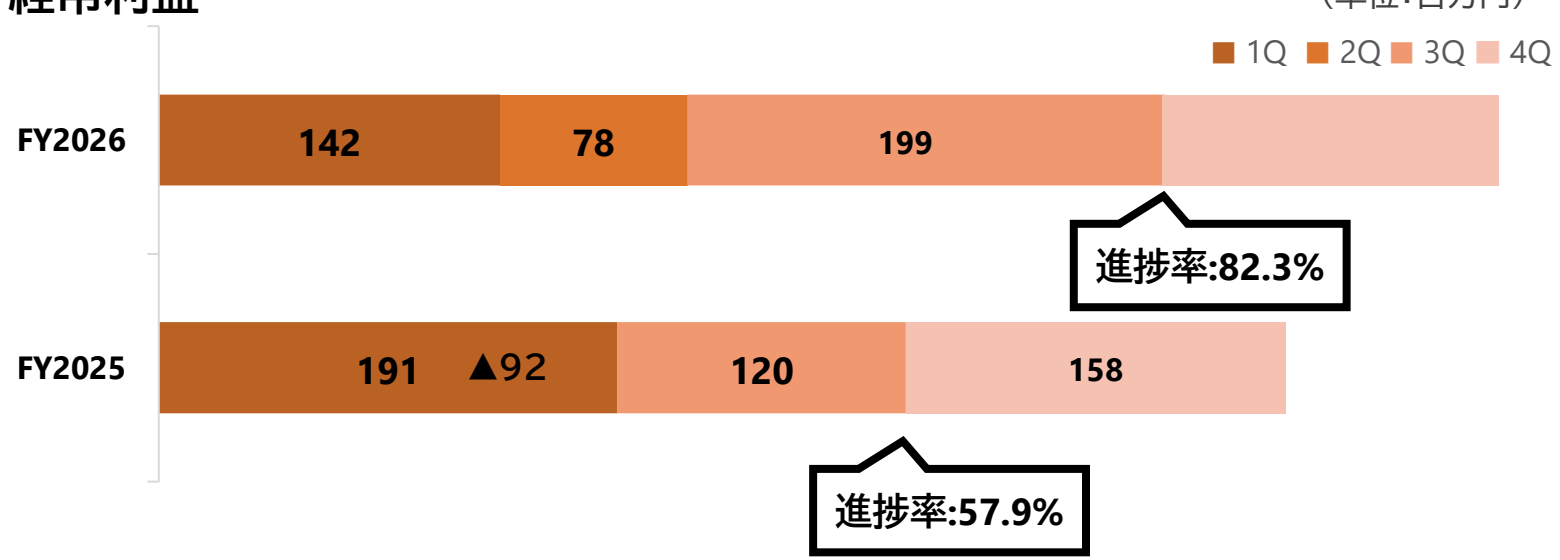
売上高



2026年12月期(予想)
11,100百万円

2025年12月期(実績)
10,488百万円

経常利益



2026年12月期(予想)
510百万円

2025年12月期(実績)
377百万円

情報発信のご案内

IRニュースメール

投資家の皆様に当社の最新情報をお届けするため、
IRニュースメールの配信をいたします。
下記URLもしくはQRコードにアクセスいただき、
必要情報をご入力のうえ、ご登録下さい。

https://rims.tr.mufg.jp/?sn=1724

公式YouTubeチャンネル

専門性の高い当社の事業内容を、より分かりやすく、
親しみやすく伝えるため、YouTubeチャンネルを開設し、
定期的に情報発信を行っております。
是非チャンネル登録をよろしくお願いします。

https://www.youtube.com/@synclayer-pb



※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です

APPENDIX

会社概要

社名	シンクレイヤ株式会社
代表者	代表取締役社長　山口 倫正
本社所在地	愛知県名古屋市中区千代田二丁目21番18号
設立	1962年5月2日
資本金	8億3,574万5,393円
従業員数	170名（連結：259名）
グループ会社	ケーブルシステム建設株式会社 奥田電気工業株式会社 愛知電子（中山）有限公司
事業内容	ケーブルテレビシステム及び情報通信システム関連の設計、施工、保守及びコンサルタント ケーブルテレビシステム機器、情報通信システム機器及びそれらの周辺機器の製造、購入及び販売 ケーブルテレビシステム、情報通信システムの導入に関する情報の提供、教育及び指導

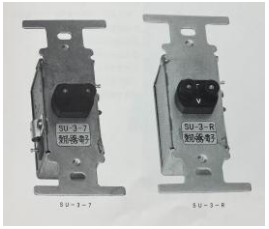


営業拠点
9拠点

開発・製造部門拠点
2拠点

シンクレイヤグループの歩み

1962
愛知電子株式会社を設立
直列ユニットの開発



1973
株式会社愛起(現:ケーブルシステム建設株式会社)を設立

1977
可児工場開設



1981
国内初の商用CCISシステムを納入



1994
海外生産拠点として愛知電子(中山)を設立

1996
国内初の商用ケーブルインターネットシステムを納入

2002
「シンクレイヤ株式会社」へ商号変更

2003
日本証券業協会JASDAQへ上場(証券コード 1724)

2011
国内初のRFoG対応機器及び低受光型V-ONUを発表

2015
10G-EPONシステムを納入



2021
大型工事案件、機器販売の拡大により過去最高益を達成

2022
ローカル5G実証実験への参画

2024
SYNC Labo開設
SORC-100シリーズがグッドデザイン賞を受賞

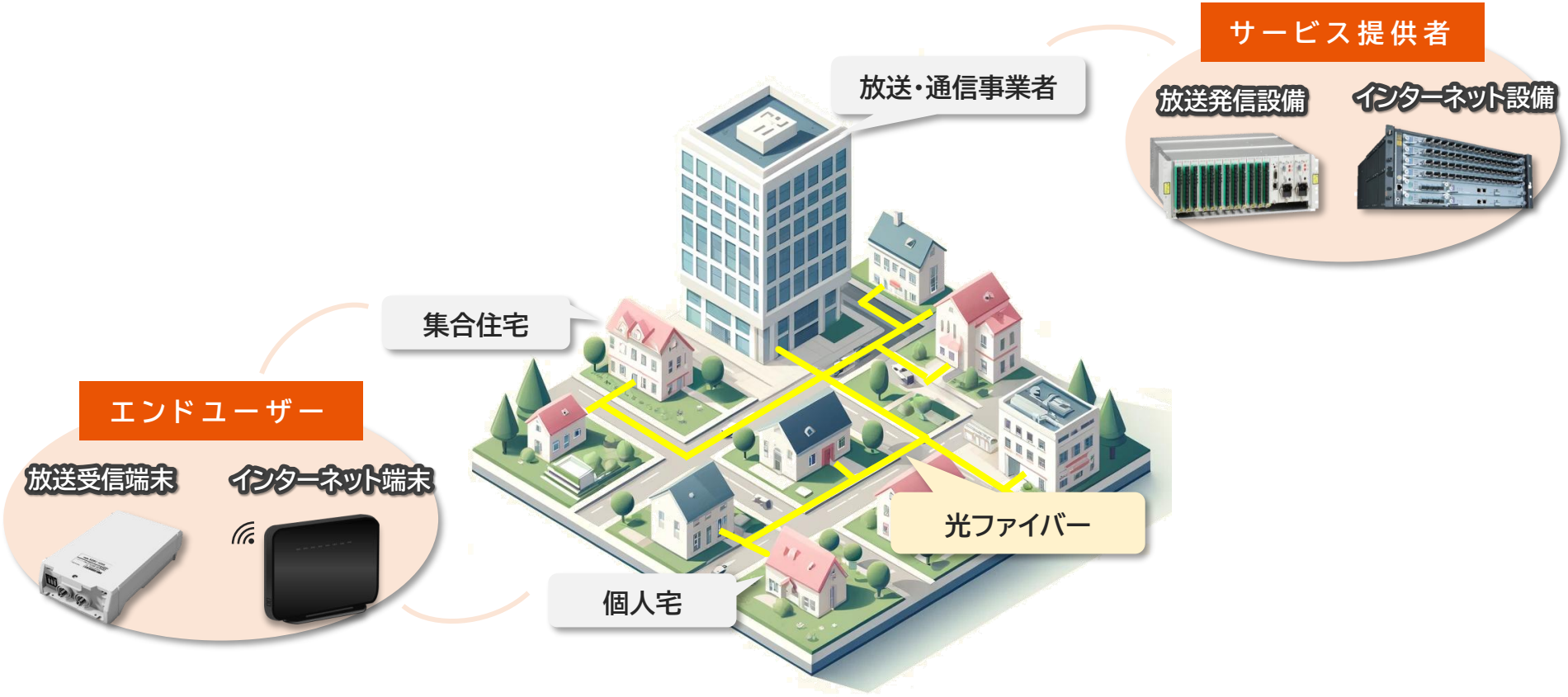


2025
国内初50G-PONを使用した
50Gbpsインターネットの実証実験を実施



シンクレイヤが提供する製品・システム（概要）

インターネットやテレビ放送を届けるサービス提供者からその消費者まで、
システムや機器などの技術を提供



工事・機器販売・保守サポートまで対応可能

事業部門の構成

SYNCLAYER
MAKING POTENTIAL A REALITY

2つの事業部門により「情報インフラ全体の構築」を行う

1

トータル・インテグレーション部門



放送・通信センター設備の提供及び
光ファイバーネットワークの設計・工事

2

機器インテグレーション部門



エンドユーザー宅に設置する
光端末(放送用・通信用)の提供

事業部門:トータル・インテグレーション部門

放送・通信事業者のシステム設備を一貫してサポート

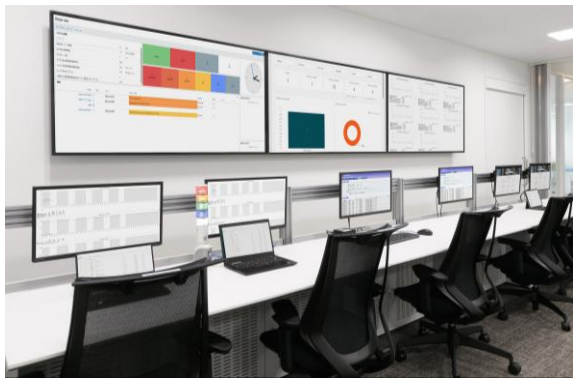
設計・施工・保守までを当社で行う「施工管理会社」の役割を持つ



ニーズに沿った
ネットワーク設計



施工



保守・メンテナンス

事業部門：機器インテグレーション部門

時代に合った最先端の放送・通信機器の開発・製造を行い、
放送・通信事業者のニーズに沿って販売する「メーカー」の役割を持つ



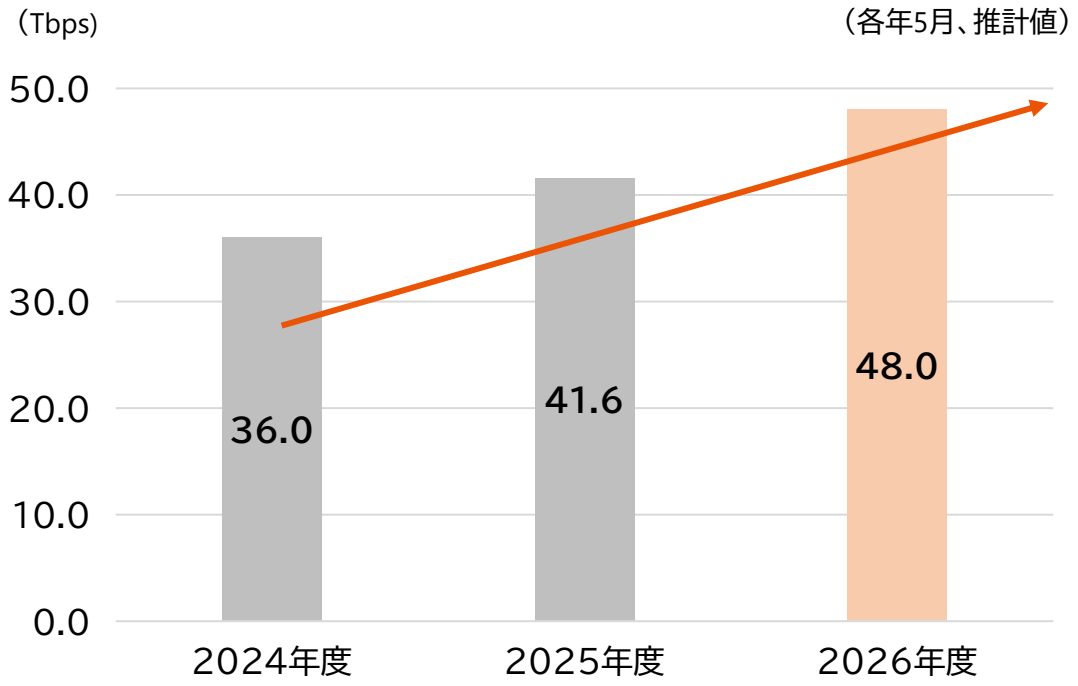
自社工場にて機器を開発・生産　　提案　　放送・通信事業者へ納品

固定ブロードバンド回線業界の市場環境

SYNCLAYER
MAKING POTENTIAL A REALITY

データ通信料の増加を背景に通信品質の安定性が求められており、ネットワーク投資ニーズが継続している

固定系ブロードバンドのダウンロードトラヒック



参考：総務省「我が国のインターネットにおけるトラヒックの集計・試算」をもとに当社作成

1 通信量の継続的な増加

・生成AIや動画配信・デジタルサービスの利用拡大

・コンテンツの高精細化　など

2 通信品質の安定確保

増大する通信を支えながら、安定したサービス提供を維持

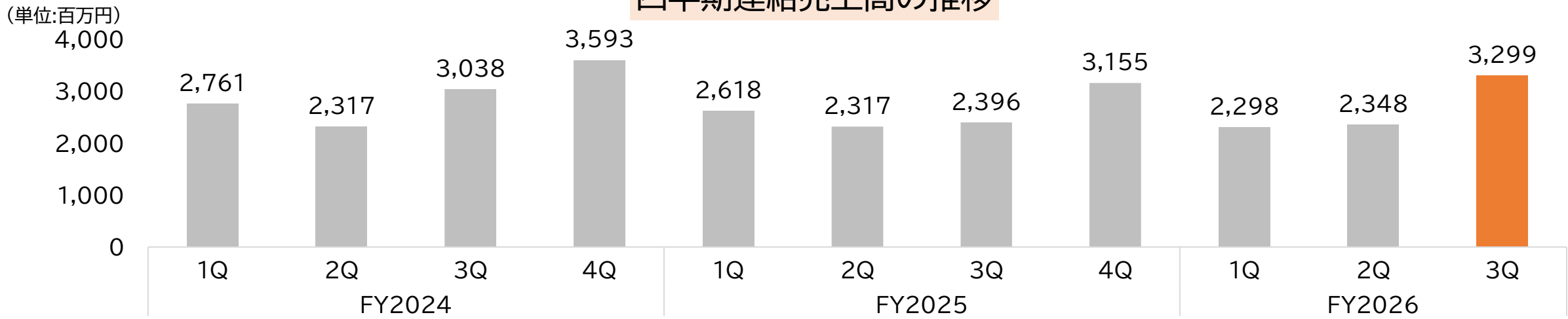
3 設備投資ニーズ

高速・大容量化／設備の増強・高度化／既存設備の更新

放送・通信事業者の投資需要を下支え

売上高・営業利益推移

四半期連結売上高の推移



四半期連結営業利益の推移



2026年12月期 第3四半期 業績(指標)

	FY2025 3Q累計	FY2026 3Q累計	前年同期比 (増減額／率)
1株当たり四半期純利益 (EPS)	29.72円	63.45円	33.73円

	FY2025 期末累計	FY2026 3Q累計	前年期末比 (増減額／率)
自己資本比率	63.2%	62.9%	-0.3pt
1株当たり純資産 (BPS)	1,361.44円	1,412.95円	51.51円

2026年12月期 第3四半期 連結損益計算書

（単位：百万円）

科目	FY2025 3Q	FY2026 3Q	前年同期差	前年同期比
売上高	**7,332**	**7,945**	613	8.4%
売上総利益	**1,545**	**1,861**	316	20.5%
販売費及び一般管理費	**1,343**	**1,434**	90	6.8%
営業利益	**201**	**427**	225	111.6%
経常利益	**218**	**419**	201	91.9%
税金等調整前四半期純利益	**218**	**422**	204	93.4%
法人税等合計	**80**	**138**	58	72.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	**138**	**284**	145	105.3%

2026年12月期 第3四半期 連結貸借対照表

SYNCLAYER
MAKING POTENTIAL A REALITY

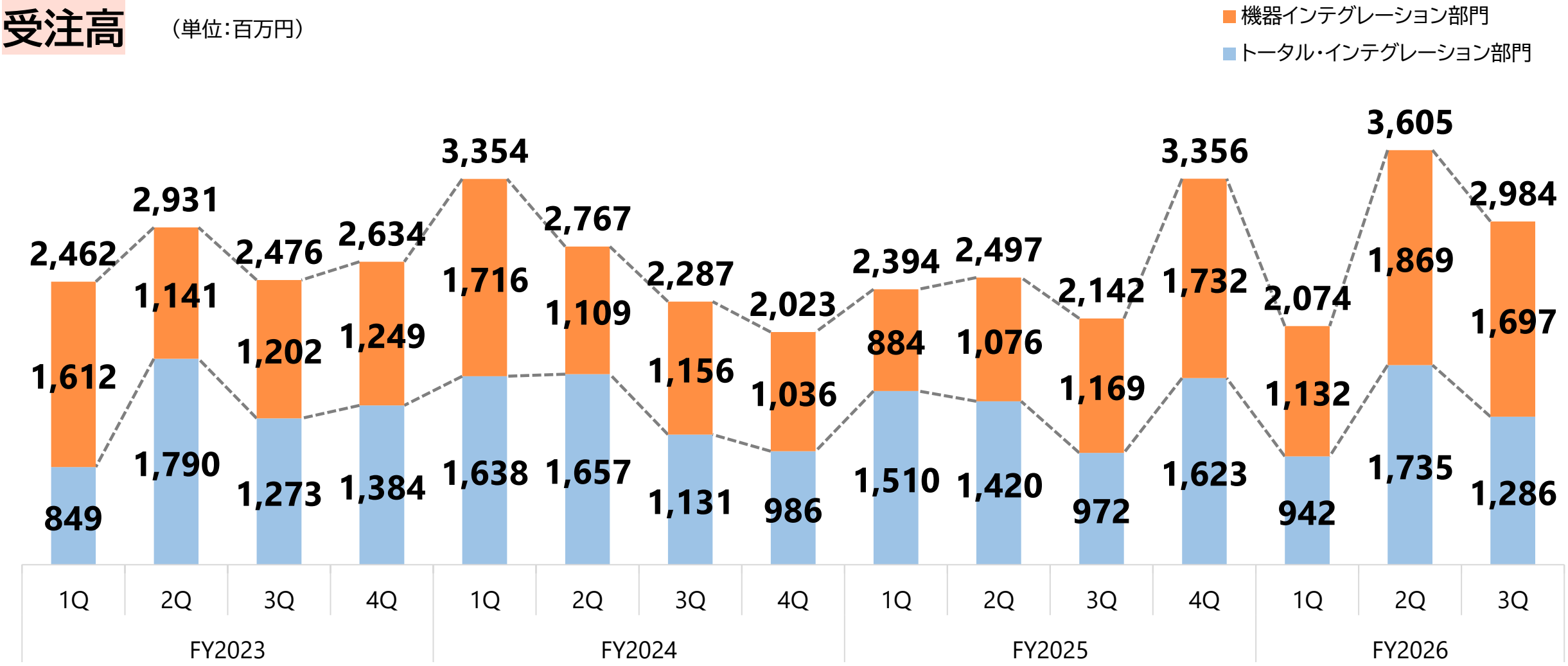
（単位：百万円）

科目	FY2025 期末	FY2026 3Q	前期差
流動資産	6,063	6,233	170
固定資産	3,757	3,831	74
（うち 有形固定資産）	2,722	2,788	66
（うち その他固定資産）	1,035	1,043	8
資産合計	9,820	10,065	244
流動負債	2,869	3,163	293
固定負債	742	573	▲ 169
負債合計	3,611	3,736	124
純資産合計	6,208	6,328	120
自己資本比率	63.2%	62.9%	-0.3pt

事業部門別 四半期受注高推移

受注高

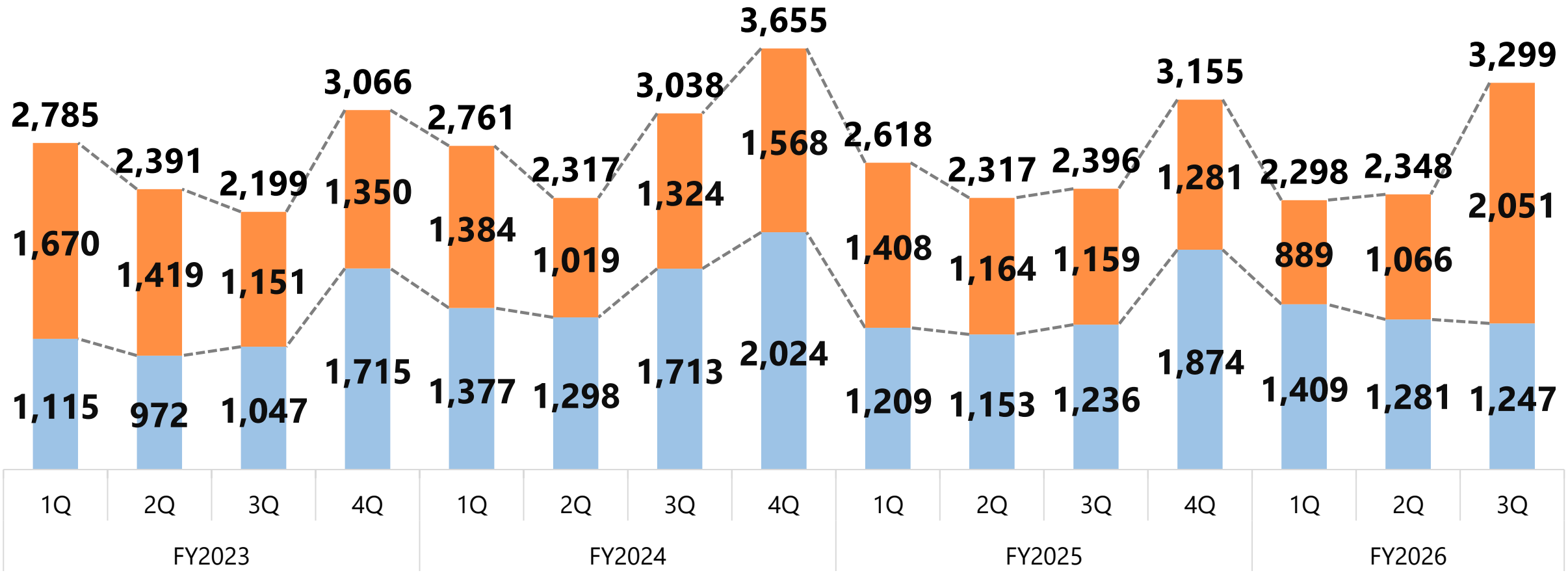
（単位：百万円）



事業部門別 四半期売上高推移

売上高

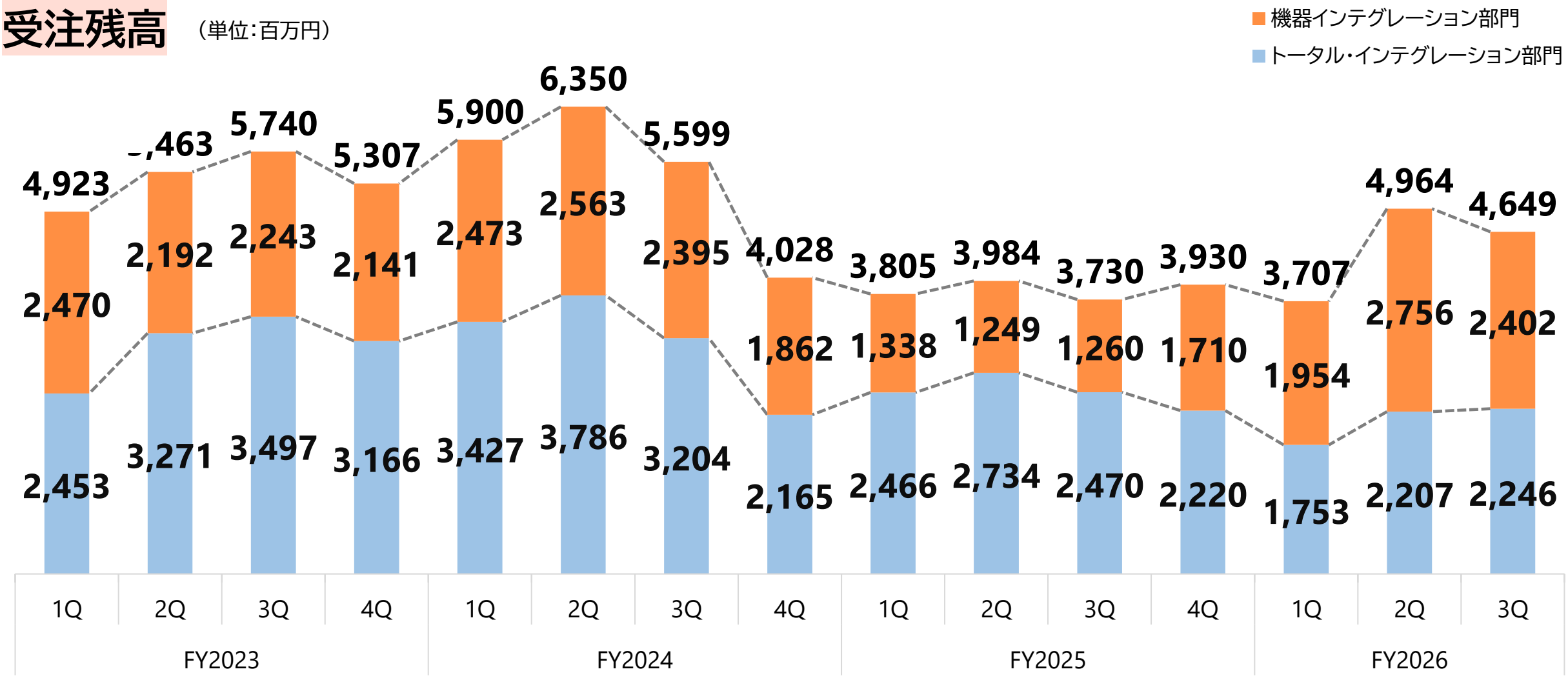
（単位：百万円）



事業部門別 受注残高推移

受注残高

（単位：百万円）



✓本資料は、投資の参考に資するため、シンクレイヤ株式会社（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

✓本資料に記載された内容は、公表日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

✓今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本資料に含まれる内容の更新・修正を行う義務を負うものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

✓本資料に記載の数値は、別途注記がある場合を除き、全て連結で表記しております。

✓本資料は、提供されましたご本人様限りでご利用ください。本資料のいかなる部分についても一切の権利は当社に帰属しており、電子的もしくは機械的にまたはその他の方法を問わず、本資料の全部または一部を、無断で引用、複製または転送等により使用しないようお願いいたします。

■IRに関するお問合せ

シンクレイヤ株式会社

広報室

TEL: 052-242-7875

E-mail: ir@synclayer.co.jp